

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	北九州市立大学		
取 組 名 称	地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開		
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成 20 年度 ～ 平成 22 年度 (3 年間)		
取 組 学 部 等	国際環境工学部	取 組 担 当 者	二 渡 了
W e b サ イ ト	http://ecogp.env.kitakyu-u.ac.jp/		
取 組 の 概 要	本取組は、地域密着型環境教育を核にして、①地域市民・企業人を活用した教育指導、②多様な現地実践教育を盛り込んだ環境教育プログラムを実施し、学部の教育理念を具体化する取組である。この取組では、①人間力育成プログラムの充実化、②環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進、③社会活動支援システムの構築を行った。		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況 【1 ページ以内】

取組の実施体制では、取組担当者を中心に環境教育プログラムの担当者及び学部の事務職員、新規に採用した本取組の専任職員が取組の実施に携わった。関係する授業科目では、その担当教員と連携して取組を進めた。とくに、「環境問題事例研究」では、全体を統括する教員 2 名に加えて、学部の 5 学科より各学科 2 名、合計で 12 名の教員が担当教員として授業を実施した。

本取組は、大きく 3 つの項目についての取組を行った。

「①人間力育成プログラムの充実化」では、平成 13 年の学部開設以来実施している 1 年次科目である「環境問題特別講義」、「環境問題事例研究」という現場実践型環境教育プログラムに加え、平成 20 年度から新規科目として始まった「入門ゼミ」、「職業と人生設計」を連動させた。これらの 4 科目は、学部 1 年次の必修科目であり、毎年度定員 250 名超の学生が受講した。「入門ゼミ」では、学科ごとにテーマを設定して少人数ゼミ形式で行い、コミュニケーション基礎能力を向上させ、「職業と人生設計」では、グループワークや個人作業、講演を組み合わせて行い、社会人基礎素養を習得させた。

「②環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進」では、「環境問題事例研究」の研究発表会において中国・大連理工大学や国内の他大学等の学生による研究発表を行い、異文化・異分野との交流を図った。また、一部学生に限られるが、本学部学生を大連理工大学に派遣し、研究発表を行った。帰国後には、そこでの交流の様子を本学部学生に報告し、国際的視点を習得させた。このような教育方法や成果に関して他教育機関との連携を強化・拡大するとともに、学生による地元教育機関等での派遣授業や企業・団体との交流を進め、教育成果の地域社会への還元を図った。

そして、「③社会活動支援システムの構築」では、正規授業科目の履修を通して習得したコミュニケーション能力や自主的活動力をさらに向上させるためにインターンシップや環境 NPO 参加、企業調査、地域活性化活動などを促進させ、地域社会との情報交流や学生の学習成果の地域還元を図るための学外活動支援システムを整備・運用した。

②. 取組の成果 【1 ページ以内】

(1) 人間力育成プログラムの充実化

授業科目である「環境問題特別講義」「環境問題事例研究」「入門ゼミ」「職業と人生設計」そして「ベンチャー起業と演習」において、授業方法や実施体制の充実化を図り、多くの学生の向学心を向上させることができた。

「環境問題特別講義」「環境問題事例研究」では、オンライン学習システムや研究資料データベース用検索システムを整備し、学生への情報提供や課題提出の操作性を高めた。なお、「環境問題特別講義」では、学長や北九州市役所の環境局職員、企業の環境部門担当者、環境活動を行う市民が講師となった講義を行い、環境問題の多面性、総合性等を学生に効果的に理解させることができた。

「入門ゼミ」では、学生のコミュニケーション能力を向上させるための特別プログラムを実施したが、その実施は人材育成の専門業者が行ったために、教員がその教育方法を十分に理解・修得するまでには至らなかった。この点は、残された課題の一つである。

「職業と人生設計」や「ベンチャー起業と演習」においても、グループワークや演習作業を行い、学生にコミュニケーション力や社会人のマナー、学外調査の方法を理解・修得させることができた。

以上の各授業科目についての授業評価アンケートの結果を見ると、「授業は総合的に満足したか」という問に対して「強くそう思う」という回答が年々増加していた。授業評価アンケートの結果が前年度より向上したことは、効果的・効率的な教育方法を実施できたものと考えられる。

(2) 環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進

環境教育プログラムのさらなる高度化を図り、異文化・異分野交流を促進するために大連理工大学や東北財経大学、大同大学、釧路工業高専の教員・学生との交流を行った。

毎年1月に開催する環境問題事例研究調査研究発表会には、本学学生による研究発表に加えて、これらの大学等の教員・学生が参加して、研究発表を行った。また、前年度の「環境問題事例研究」において優秀な成績をおさめたチームの学生を中国の大連市に派遣し、大連理工大学や東北財経大学での研究発表を行い、学生間の交流を深めた。

(3) 社会活動支援システムの構築

学生がインターンシップや環境 NPO、地域ボランティアの環境活動へ自主的に参加することを支援するシステムを構築することを目標とした。

地域の環境イベントやボランティア等の情報を収集し、学生に周知するための情報コーナーの整備やその活動を担当する学生ボランティアスタッフを組織することができた。また、学生が社会活動を行う際のスキルアップを図るために「キャリアアップサロン」を定期的で開催した。

インターンシップ入門版に位置付けた「環境・ものづくり見聞録」は、北九州市内の企業の協力もあり、平成21年度と22年度の2回に亘って実施し、冊子を発行した。参加した学生には、企業経営者や担当者の話を直接聞くことにより、企業において必要とされる人材のイメージを具体的に捉えることができた。取材を受けた企業にとっても、冊子が広く配布されるため、企業紹介という効果があった。

③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

本取組では、①授業評価アンケート、②自由形式感想文、③調査研究発表会における外部参加者評価の3つの方法で教育効果の把握に努めた。授業評価アンケートでは、その授業を行った学期終了時において、全受講生を対象にアンケートを実施した。例えば、「環境問題事例研究」の場合、「授業は総合的に満足したか」という質問に対して「強くそう思う」という回答が、平成20年度18.7%、21年度22.3%、22年度27.8%と年々増加した。取組の成果と考えられる。

さらに、「環境問題事例研究」を受講した学生が地域の環境イベント等に参加してその成果を紹介することによって、学生の社会体験の場とすることができた。しかし、参加する学生の数が少ないこと、イベントの場が限られていること、小中学校への派遣授業のような固定的な活動にはならなかった点は、反省点である。

社会活動支援システムを構築し、学生が地域の環境活動等に積極的に参加するような取組を行った。その一つにキャリアアップサロンがあり、21年度には8回開催して学生72名が参加、22年度にも8回開催して119名が参加した。これらに参加した学生は、学部在籍の学生数に比べると少数ではあるものの、自主的・積極的に活動に参加する学生が現れたことは、学生が社会活動を行うことの意義が理解されたものと考えられる。今後は、その参加学生数を増やしていくことが求められる。

④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

本取組で実施してきた中国の大連理工大学等との学生レベルでの交流は、相互の大学の学生等に大きな刺激を与えてきた。しかし、その経費は大学の恒常的予算の確保までには至らなかった。「公立大学法人北九州市立大学中期計画（平成23年4月～平成29年3月）」関連の新規プロジェクト事業経費の募集が行われており、それに応募することになっている。

また、社会活動支援システムとして「地域交流センター」を整備することになっていたが、期間中に正式な組織化までには至らなかった。しかし、前記中期計画の「地域社会を活用した学生の社会的自立の支援」という項目において、「(仮称)地域ものづくり交流センター」を設置することが記載された。これは、本取組の成果を発展的に引き継ぐものであり、本取組はこの活動の基礎を築くことができたと言える。ものづくりと環境技術をテーマとした教育ボランティアやインターンシップなどを通して、学生の社会的・職業的自立につながる就業力を培うものと期待される。

2. 取組の全体像 【1ページ以内】

本取組「地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開」では、学部開設以来実施してきた環境教育プログラムに加えて、平成20年度の学科再編と新カリキュラムの導入に対応した人間力育成プログラムの充実化を図り、フィールドワーク環境教育を実施する中国の大連理工大学や大同大学、鉏路工業高専と学生レベルでの交流を進め、さらに、学生が地域の社会活動に自主的に参加するための支援システムを構築して、学生の活動支援を促進した。

人間力育成プログラムの充実化として、授業科目である「環境問題特別講義」「環境問題事例研究」「入門ゼミ」「職業と人生設計」そして「ベンチャー起業と演習」において、授業方法や実施体制の充実化を図り、多くの学生の向学心を向上させることができた。

環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進では、環境教育プログラムのさらなる高度化を図り、異文化・異分野交流を促進するために大連理工大学や東北財経大学、大同大学、鉏路工業高専の教員・学生との交流を行った。

そして、社会活動支援システムの構築学生がインターンシップや環境NPO、地域ボランティアの環境活動へ自主的に参加することを支援するシステムを構築した。とくに、インターンシップ入門版に位置付けた「環境・ものづくり見聞録」は、北九州市内の企業の協力もあり、平成21年度と22年度の2回に亘って実施し、冊子を発行した。

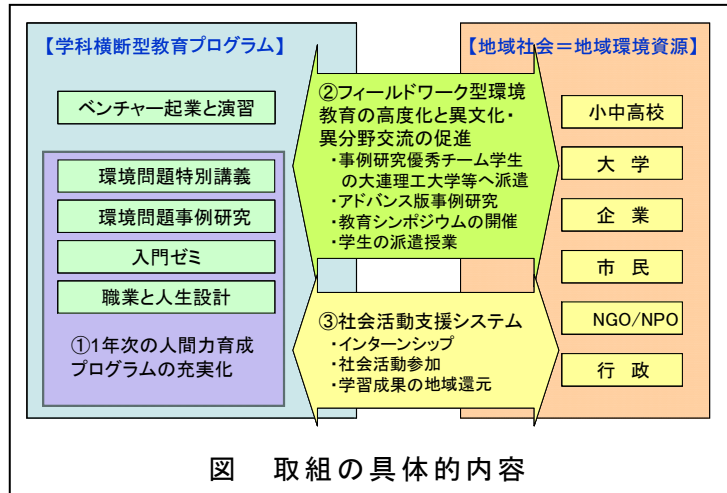


図 取組の具体的内容



本取組は、コミュニケーション能力や問題発見・解決能力等を修得した学生が地域社会に自主的・積極的に展開することを支援することを主眼としてきた。ボランティアや社会活動に関心のある学生にとっては非常に有効なシステムとなったが、大半の学生には関心外のことであったかもしれない。各学科の専門科目の演習等に組み込み、学生の学年進行に伴ってこれらの能力をさらにレベルアップする取組が必要である。

北九州地域には、環境やものづくりについて多くの人的・物的資源が存在する。環境やものづくりについての理解を進め、地域社会で実践するために関係機関との連携を強化し、具体的な活動を継続していきたいと考える。